

西条ロータリークラブ 週報



インスピレーションになるう

週報 2018年9月22日 9月第3例会

例会日 木曜日 グランラッセーレ東広島

事務局 東広島商工会議所会館3階

会長 山田 謙慈 幹事 奥本 哲之



本日の例会 家族月見例会 第2642回

18:00 点鐘 (山田会長)
ロータリーソング 「我等の生業」
お客様の紹介 (廣幡副会長)
会長時間 (山田会長)
出席報告
委員会報告
幹事報告
点鐘 (山田会長)

家族月見例会
ロータリーソング 「手に手つないで」

《幹事報告》

9月27日(木)は
振替休会となっております。

お知らせ

★今後の例会スケジュール

- 10月4日(木曜日) 余 盼 盼 さん(米山奨学生) 卓話
- 10月11日(木曜日) 例会休み(10月8日祝日振り替え)
- 10月18日(木曜日) 情報集会の発表
- 10月25日(木曜日) 青少年奉仕委員会担当卓話 武島委員長
- 11月1日(木曜日) 例会休み(11月3日祝日振り替え)

★今後の地区スケジュール

- 10月19日(金曜日) 地区大会 記念ゴルフ大会【尾道うずしおカントリー倶楽部】
- 10月20日(土曜日) 地区大会 会長幹事会/基調講演【尾道国際ホテル】
- 10月21日(日曜日) 地区大会 本会議/記念講演会:阿川佐和子氏【びんこ運動公園】

《ロータリー 地区大会とは》

毎年、地区ごとに地区大会が開かれます。地区大会の目的は、クラブ会員がロータリーの最新情報や地区内の活動状況について学び、ほかのクラブのロータリアンと交流することです。地区大会は通常、1～2日間にわたって行われ、以下のようなプログラムが含まれています。

- 会長代理の訪問(大会中、会長代理が国際ロータリーの最新情報を伝え、会員の活動意欲を鼓舞する)
- 地区に関する報告(活動成果と課題を含む)
- 地区案件の討議と投票
- 地区会員が関心をもつような主題の講演(地元や海外の講演者による)
- 交流・ネットワーキングの時間、奉仕活動やリーダーシップに関する情報の提供

会長時間（9月13日例会）



皆さんこんにちは、ご健勝のことお喜び申し上げます。

さて、今月のロータリーの友に「見て見ぬふり」をしないこととは、というエッセイがありました。

線路に落ちた人を救おうと線路に降りること。溺れた人を助けようと水に飛び込むこと。目の前の人を助けようと、思わず差し出した手が、自分の命を奪うことがあります。人助けをするときは自分一人です。「見て見ぬふり」をしないこととは大げさなようですが、自分の命を駆けることです。「良かれ」と思ってとった行動は、自分だけでなく家族にも影響を及ぼします。

皆さんも同じだと思いますが、小さい頃から親に「見て見ぬふりをするな！」と教わり続けて来ました。それが当たり前の正しい身の処し方だ、と考えていましたが、実際は違う行動をとることも知っています。

私がまだ大学4年生の頃大学病院の食堂で昼食をとり10人くらいで外に出た時、道端に一人の中年女性が倒れていました。これはどうしたのか、みんなで顔を見合わせながらしばらくじっと立ちすくんでいたところ、10秒くらいして同級生の一人が声をかけて介助しながら助け上げるのを見てほっとした思いでした。今でもずっとこれが引っかかっているのです。どうして自分が最初に援助しなかったのか、格好をつけていると思われはしないか、間違った処置をしたらどうしよう、などと葛藤をしていたのです。医者卵でありながら意識は一般以下のレベルでした。もちろん今では、こと体の変調のある人については職業奉仕という大上段ではなく職業柄見て見ぬふりはできません。しかしこれと異なり、犯罪行為・事故などへの対応は自己犠牲によって成り立つことも多く、その選択肢は幅広いものとなります。場合によっては「見て見ぬふり」を勧めざるをえないこともあるでしょう。

気をつけなければいけないことは、自己犠牲をすることで救われた人がいた場合、最大限の賛辞でその行為を喧伝することの危険性を理解することです。もしできるならば、そのような選択肢の一つ一つを検証し、類似の状況に立った時に瞬時に行動できる道筋を示しておくこと、これが情報化社会における一つのエビデンスと言えるのではないのでしょうか。「見て見ぬふりをしない」は鉄則ではないと考えます。

ありがとうございました。

退会ご挨拶（9月13日例会）

久保 一史 様（広島銀行西条支店）





広島信用金庫の上野でございます。本日新入会員卓話とゆう事となりましたので、私の自己紹介をさせていただきます。単なる自己紹介では如何なものかと考え、皆さんの多くも同様と思いますが、愛するカーブの歴史を振り返りながらお話しさせていただきます。

< 幼少期 >

西暦 1967 年・昭和 42 年 7 月 3 日広島県佐伯郡五日市町（現佐伯区）にて生まれました。

昭和 42 年のカーブは監督が長谷川良平で 1950 年の球団創設以来 17 年連続 B クラスで、昭和 42 年も結果は 46 勝 83 敗 8 分けの最下位となっております。古場竹識が一番セカンド、三番ライト山本一義が打率 3 割を記録し当時のエースは安仁屋でした。この年のオフに東洋工業が筆頭株主となり、広島カーブから広島東洋カーブにチーム名が変更となっております。ちなみに日本一は巨人で

9 連覇の 3 年目となっております。

私の本籍は父が三原市出身であったため三原市宮浦町となっております。西条地区には祖父の生家があり、そういった面では西条に縁があります。

子供の頃自動車で三原に帰省するわけですが、車酔いをする私にとって大渋滞する西条は鬼門のイメージがあります。反面、現ホットカモに大きな飛行機が広告塔を置いてあったことから、飛行機のレストランと勝手に命名し、そこで休憩することを楽しみにしていたことも楽しい思い出の一つです。

家族構成は両親と、2 歳上の姉、当時典型的な核家族でした。

五日市に自宅があるのは、父親が国家公務員として広島大学に勤務しており公務員社宅が五日市町楽々園に公務員社宅があったためであり、社宅に入居した後に近隣に自宅を取得した為です。

生まれ育ち、今でも自宅を構えている五日市町について少し説明させていただきます。1980 年 10 月 1 日・昭和 55 年に広島市に合併し佐伯区となるまでは、広島市に隣接するベットタウンとして人口 87,325 人日本で一番大きな町でした。五日市町楽々園といえば、遊園地で遊んだり、埋め立て前の海水浴場で海水浴をしたとの思い出を思い出される方が多いです。わたくしの自宅は埋め立て地の傍らにあります。

造幣局広島支局に隣接したコイン通りがいわゆる繁華街ですが、JR 五日市駅とのアクセスが悪く五日市の欠点と感じております。アストラムラインが五日市へ降りてくれることを切に願っておりますが、恐らく西広島己斐へ下りることとなるでしょう。

造幣局では毎年春に局内の桜を鑑賞する“花のまわりみち”が開催されております。4 月の中旬に開催され、4 万人近くの来場者がある様子です。

食の面では西条地区と同様にチェーン店の多くが乱立しており、食べることに困ることはないと思いますが、マヨネーズ入りたこ焼き、通称マヨタコ発祥の店といわれる、“一休庵”がございまずので、是非お立ち寄り頂ければと思います。

< 小学校時代 >

1974 年・昭和 49 年地元の五日市南小学校に入学いたしました。先ほど申し上げましたように、小学校時代は人口増加の真ただ中で、同級生は一クラス 40 人×6 クラスの 240 人で入学時は 6 年生まで 6 クラスずつであったので役 1500 人位の生徒数であったと思います。それが卒業時には、徐々に増加し、わたくしが 6 年生の時の 1 年生が 13 クラスまで膨れ上がっておりました。恐らく 2000 人位の生徒数ではなかったかと思えます。よって運動会も紅組白組ではなく黄色と緑組を併せ 4 チームで開催されておりました。

その当時、昭和 49 年のカーブは別当監督のもと山本浩二と衣笠がクリーンナップを組み、金城が 20 勝で最多勝と、奪三振王、外木場投手も 18 勝を挙げるなど活躍しましたが、54 勝 72 敗 4 分けの最下位でした。しかし翌昭和 50 年の初優勝への気配を感じる戦いであった様子です。私はまだテレビで野球が流れている程度の興味しかありませんでしたが、昭和 50 年の優勝から一気にカーブファンとなりました。実際のところカーブは強い時代からしか記憶がないです。小学校時代はカーブの黄金期で、昭和 51 年は 61 勝 58 敗 11 分けの 3 位、衣笠が盗塁王、昭和 52 年は 5 位と低迷したものの、山本浩二が 40 ホームラン、高橋里志が 20 勝を挙げ最多勝、昭和 53 年はリーグ 3 位でしたが、水谷実雄が首位打者、又、ライトル、ギャレット、山本浩二、衣笠の 4 人

が30本以上のホームランを打ち200発打線と言われました。投手陣には抑えに江夏が加わっております。昭和54年小学校最終年度となりますが、67勝50敗13分けてリーグ優勝、高橋慶彦が33試合連続安打を放ち、日本シリーズでは、近鉄と対戦し、球史に残る江夏の21球で初の日本一となりました。

そういったカーブの黄金時代でありました私の小学校時代は、自ら勉強した覚えは殆どありませんが、小学校2年生の時仲の良かった友人がそろばん塾に通いだしたので、行動を一緒にするとゆう単純な動機でそろばん塾に通っておりました。今振り返ってみれば、数字が好きになり、金融機関の道へ進んだのもこのそろばん塾での経験が大きな要素の一つに感じられます。ずいぶん衰えましたが、今でも一番使える能力は暗算かもしれません。

運動面では、4年生の時から町内会のソフトボールに参加、町内会とはいえ選手は多く、4年生から6年生まで40人位はいたように思います。4年生からセカンドのレギュラーを獲得し、6年生までセカンドを守っておりました。

< 中学校時代 >

1980年・昭和55年、地元の五日市南中学校に入学、入学時湯崎知事が3年生でした。

昭和55年のカーブは、古葉監督のもとリーグ・日本シリーズともに連覇し、個人でも山本浩二が本塁打と打点の2冠、高橋慶彦が盗塁王と正に最強の時代と思います。

中学校に入学した私は、父親がソフトテニスをしていた関係と、その頃いわゆるまたずれを発症するくらいの肥満児で有ったため、人気の野球部やサッカー部は諦めソフトテニス部に入ろうかと思案していたところ、ありがちですが同じクラスの出席番号が次の友人と一緒に体験入部をしようとう事になり、先ずは友人が検討していたバレー部へ体験入部を致しました。

バレーボールなど頭の片隅にもなかった部であったし、何となく女性のスポーツのイメージが有った部であったので、行くだけの感覚でした。しかし、体験入部中にその考えは180度変わり、一気にのめりこみ他のクラブは見向きもせず入部いたしました。その後空前のバレーボールブームが到来したのも何かの縁かもしれません。

バレー部では、肥満児の私はセッターを目指しており、3年生が引退後新チームになった時には、控えのセッターとしてベンチ入りし、最上級生の時は正セッターをさせて頂きました。

この時たまたま始めたバレーボールですが、後に私の現在につながる事象が発生するのですが、その話は後ほどとさせていただきます。

< 高校時代 >

1983年・昭和58年、山本浩二を輩出した広島県立廿日市高校へ進学。

受験する前、担任の先生からは、私の成績表では公立高校は無理では？同じ公立高校でもワンランク下げてはとのアドバイスがありました、しかしながら、歩いて5分に位置していた廿日市高校は魅力的で廿日市高校受験を決めました。実はここで幸運な事が起こっていました。丁度公立の廿日市西高校が新設され、私たちの世代が一期生として入学する時期であったのです。願書提出後、発表された廿日市高校の倍率は、今でも忘れられません1.10倍、簡単に言えば11人受験して1人しか落ちないのです。尚、当日試験を受けなかった人もいたらしく、試験実施後の倍率はさらに下がり1.09倍でした。

後から分かった話ですが、成績は私より良かったものの、設備が新しく、上下関係を嫌う生徒や、廿日市西高校に近かったり、当落線上ぎりぎりの生徒が廿日市西高校へ流れたようでした。

昭和58年のカーブといえば高橋義彦・山崎隆三が固定され、リーグ2位、59年はリーグ優勝・衣笠がMVP、山本浩二が2000本安打達成、60年も安定した成績を残しましたが、バース・掛布・岡田のバックスクリーン3連発がるなど猛虎打線が猛威を振るった阪神に優勝をさらわれ、リーグ2位でした。

高校入学後、身長の高い私は243センチまでネットが上がるバレー部への入部はためらっていたところ、他の中学校のバレー部であった人が、一緒に入部しようと誘いに来てくれたのです。見学に行ったところ3年生4人が卒業したら2年生が3人、同級生でバレー経験者は私を含め3人とゆう状況だったのです。後から判明するのですが、地元中学校のバレー部のエース級は殆ど廿日市西高校に進学しており、廿日市高校には来ていなかったのです。いくつかの幸運が私の背中を押すこととなり、バレー部へ入部。ポジションはセッター、部員は少ないですが、西方面では伝統校だったので、大体県大会までは進出しておりました。

同期で入部したのは15人位いたと思うのですが、最終的には5人しか残りませんでした。すぐレギュラーになれると目論んだ部員が多かった証拠と思います。ちなみにマネージャーも5人、その一人と初めてお付き合いしました。カーブではないのですが、3年生の時のドラフトは、桑田・清原の時でした。よって、二人とは同期となります。

< 浪人時代 >

いくつかの幸運が重なり、ラッキーな事ばかりでしたが、さすがに大学受験は実力のない私には厳しく、見事に浪人することとなりました。

浪人時のカーブは、5回目のリーグ優勝を達成、日本シリーズでは1戦目を引き分けとし、初の第8選まで日本シリーズが行われた時です。第8戦では秋山選手のバク宙ホームインもあり、屈辱の日本シリーズでした。又、このシーズンをもって山本浩二が引退しております。

浪人中、河合塾にて過ごし、まじめに勉強に勤んでおりましたが、検討虚しく第一希望であった国立大学への受験は失敗し、地元の広島修道大学へ進学することとなりました。

< 大学時代 >

昭和62年広島修道大学、商学部経営学科へ入学

大学時代のカーブは、優勝には届かなかったものの、常にAクラスを維持し、三振かホームランのランスが本塁打王を取ったり、正田が2年連続首位打者を取ったり、津田がセーブ王を取ったりしました。又、市民球場にクモ男が出現した時代で、色々な面で楽しませてくれました。

大学入学後、高校入学時と同様に知り合いが全くいない状況であり、いささか孤独感を感じておりました。これではいけないと考え、何かサークルへ入ろうと決心し、見学を行いました。

まずはバレー部を見学しました。衝撃的だったのは、私が高校時代に全国大会へ出場した神辺旭高校のセッターが居たことです。入部すればそれなりに満喫できたとは思いますが、高校3年生の7月に引退後、浪人を経た体力では、やや困難と感じ入部は諦めることとしました。

次に見学に行ったのは、小学校時代に経験したソフトボール部でした。全国レベルとのうわさは聞いていたものの、どのレベルが全国レベルなのかとの興味もあり見学しました。

グラウンドでソフトボールをしているプレーを見たとき、あれ？これで全国レベル？これならいけるかも？頑張れば全国に行けるかも？と一瞬で感じました。しかも、中学校のバレー部の先輩が居るのを見つけたときは、これだと思い、すぐに先輩に声をかけることとなりました。

新入部員募集中で有ったことも有り、歓迎のムードに包まれましたが、大きな間違いであったことも判明いたしました。その間違いとは、ソフトボール部ではなく、スポーツ愛好クラブとゆう、ソフトボール、サッカー、バレー、バスケ、テニス、スキーなど色々なスポーツを行うサークルだったのです。しかしながら、今の自分には最適と感じたのも事実で、迷うことなく入部を決断いたしました。

サークルでは2年生の時副部長、3年次は部長を務めさせていただき、他の部との交流も図り、充実した4年間を過ごすことができました。

私が部長の時には、新たな試みとして他の部からの試合申込みを受けたり、体育会系の部との練習試合を行ったりしました。ソフトボール部に試合を申し込み対戦もしましたが、完全試合での負けで、さすがに全国レベルでした。

又、大学3年生の時、同じクラブの女性とお付き合いが始まり、後に結婚することとなるのです。

< 広島信用金庫時代 >

1991年・平成3年4月 広島信用金庫へ入庫

入庫したときのカーブは、炎のストッパーと呼ばれた津田投手が4月の登板を最後に病気療養に入るとゆう悲しいことも有りましたが、6度目のリーグ制覇を達成しております。

ただ、この優勝を最後に平成28年のリーグ制覇まで25年間の時間を要することになります。

金融機関を選んだのは、特にこれといった理由はなかったのですが、子供のころ安易な理由で開始したそろばんの影響があったと思います。そろばんをしていたことで唯一得意な教科は数学であり、数字の右と左がイコールで結ばれる世界は心地よく感じており、何となく金融機関を志望致しました。

広島信用金庫を選んだのは、長男であり広島から出ることはないと言われたことも有りましたが、大学の1つ上の先輩で今でも尊敬する人が広島信用金庫に入庫していたことも大きな要因でした。

最初の配属は、廿日市支店でした。自分としては社会人になり、広島市内で勤務する事をイメージしておりましたが、何と自宅から歩いて15分しかも自宅よりも広島市内から遠い店舗でした。やや気落ちしたのは事実でしたが、配属されお客様と接する際に、廿日市高校出身とゆうだけで、多くのOBから可愛がられ、実力以上の成果が上げられたように思います。

入庫後3年目の平成5年10月10日、当時体育の日に大学時代から付き合いしていた女性と結婚、平成7年3月6日には長女が誕生いたしました。

長女誕生後の平成7年4月、4年間の廿日市支店配属を終え、中広支店へ異動、渉外を担当し管轄エリアは福島町に隣接する小河内町・都町でした。ただひたすらに予算消化に没頭していたように思います。

中広支店在任中の平成9年3月16日には次女が生まれております。

次女誕生後の4月、平成9年4月庚午支店へ異動、初めての融資係となったわけですが、支店長より半分は渉外をするよう指示を受け、主に自分より若手の事業先のフォローの形で訪問しておりました。1年後係長に昇格し、その半年後の平成10年10月、本店営業部へ異動。本店営業部でも融資係に席を置きながら、渉外活動を行い主に新規開拓専門の担当者をさせていただきました。

平成13年4月、廿日市中央支店に支店長代理に昇格して異動。廿日市の支店は2度目でしたが、旧宮島信用金庫の本部が廿日市中央支店であったので建物は違いました。しかしながら、お客様は覚えていてくれて、渉外担当の支店長代理の名刺を見せて喜んでもらったときは、錦を飾った気分を味わい、自分としても嬉しかったことを覚えております。

平成16年10月、安芸府中支店に異動。2年半の勤務でしたが、半年だけ融資の担当支店長代理を経験いたしました。これまで融資の係には席を置いた事は有っても、中身は殆ど渉外活動ばかりで、そろそろ融資の係を経験したいと支店長に申し出採用されたものです。私が担当業務に希望を言ったのはこの時だけです。

融資の期間は短く、半年後には己斐支店へ次長として異動、昇格したので致し方ないのですが、一人次長の店舗の次長は渉外の担当となっており、再度渉外活動にいそしみました。平成19年10月皆実支店、平成21年4月宇品支店、平成23年4月八丁堀支店に次長のまま異動、一年後の平成24年4月課長職である八丁堀支店の副支店長に昇格させて頂きました。

平成25年4月沼田支店に支店長として異動、一家の主となった訳でございます。初めて一家の主となり燃えに燃えておりましたが、成績は上がり予算は未達となった訳ですが、半年間の人材育成と活動は無駄ではなく、残りの1年半は先ずは順調な推移であったかと思えます。

2年間の配属を終え、平成27年4月段原支店へ異動、前任は栢本支店長でした。なので栢本支店長からは2回続けての引き継ぎとなっております。

段原地区は比治山の影となり原爆の影響をあまり受けなかった地区でしたが、反面再開発が遅れておりました。私が着任したときは段原地区の再開発事業はほぼ終焉を迎えており、平成の街へと移行しておりました。私が在任していた3年間で、不動産が高騰し着任時の坪単価は100万円でしたが、異動直前には坪140万での売買が成立する状況であり、40%もの高騰でした。

そして30年4月西条支店支店長として着任し現在に至っております。

< ア タ ッ カ ー ズ >

仕事以外では、今年で13年目となるのですが、地元小学校で小学生にバレーボールを指導しております。バレーといっても、バトミントンのコートを使用し4人制でビニールボールでプレーする『ソフトバレーボール』と言われるものです。きっかけは、娘2人が子供会の行事で年2回開催される佐伯区の大会に参加したことでした。毎年11月と3月に開催されるのですが、土曜日又は日曜日に約一か月間練習し試合に臨む程度のものでした。私は保護者として練習のお手伝いとゆう事で、参加しておりました。3月の大会が終わりしばらくして、お世話をしていた町内会の方から、クラブチームを作ることとなった、については代表に就任してもらいたいとの要請がありました。

なぜ?と聞くと、子供たちが、『試合が終わったら練習がなくなり寂しい』、『もっと練習して勝ちたい』と言っているとの事でした。自分の子供二人も参加するとの事でしたので、やりましょうと返事を致しました。ただ、全部を一人でこなすことは困難なため、保護者の方に代表をお願いし、私は総監督とゆう事で2006年4月にチーム名を『楽々園アタッカーズ』としてスタート致しました。

スタート致しましたが、毎週土曜日・日曜日の午前中3時間を練習に費やし、小学校1年生から6年生まで約40人の子供を指導する事は激務でした。名前も分からない子供達であり、名前を呼べない。そして一度に指導する人数は10人で手いっぱい、残り30人は放置状態となってしまいます。

当然思うように上達するわけでもなく、練習メニューを作っても消化できない日々が続いていました。

そこで、先ずは格好から入り、もっとクラブチームらしくしようと考え、お金はかかりますが、練習用のTシャツと、ジャージをそろえてもらいたいと保護者に進言し、そろえてもらいました。

そろえてからは、クラブチームに入っているとゆう自覚が出てきたのか、少し子供たちの真剣さも出てきたと思えます。又、実際の練習でも子供を直接指導する事は諦め、教え方をお手伝いに来てくれている保護者に教えることにしました。先ずは指導者の育成です。その時の指導者の方々は今でも練習を支えてくれるメンバーです。

このボランティア活動が始まり13年目を迎えましたが、保護者は保護者でソフトバレーのチームを立ち上げ、市リーグへ加入。卒業していった子供たちは、音信不通の子も居ますが、高校や大

学へ進学したときは、当時を懐かしがって体育館に遊びに来たり、指導者として私を助けてくれたりしております。卒業生は87人、現役選手15人を加えれば102人の子供たちを指導させていただき、その保護者ともスパーで会えばバカ話をできるくらいの関係ができ、地域のコミュニティに参画できるようになったと思います。本当に幸せな日々を送っております。

仕事でもこの経験は生きており、子供が部下、保護者が顧客の様な感じで、子供を成長させ、試合で勝たせることが、保護者満足につながり、クラブ運営が順調に推移するといった感じです。

私の51年間を振り返り、人と幸運に恵まれた51年間であったかと改めて痛感いたしました。友達が通っているとゆう理由でそろばんを始め、金融機関に縁を求め。

中学校ではたまたま出席番号が次とゆう理由で、バレーボール部に入部、その後指導とゆうボランティアに繋がり

高校は廿日市西高校が新設されたため、第一志望の廿日市高校へ進学。

大学ではたまたま中学校時代の先輩が居たスポーツ愛好クラブに入部し、大学時代を満喫。妻ともめぐり合い、尊敬する一つ上の先輩と同じ広島信用金庫に入庫。

その他にも多くのご縁を頂き、今があると感じております。

この西条支店に配属しロータリアンにさせて頂いたのも、何かの縁と思います。在任期間中会を盛り上げるべく積極的に参加いたしますので、改めて宜しくお願い致します。私の卓話とさせて頂きます。

例会通信 (9月13日)

★連続100%出席表彰
佐々木(伸)会員 1年



スマイル・ボックス (Smile Box) 9月13日例会出宝分

本例会:14,000円
(今年度累計金額241,000円)

★新開会員:10年前、光州RCの金光泰さん宅にホームステイさせて頂き、当クラブで報告をした息子が、9月9日に結婚しました。



HappyWedding!



スマイル・ボックスって、何???

例会場で会員が自由意思で善意の寄付金を入れる箱(ボックス)。会員、家族、事業場等の慶び事、お祝い事をスマイルしながら披露し、喜びを分かち合い、又失敗したり、迷惑をかけた時もユーモアたっぷりに苦笑し、例会を賑わせて親睦を増進します。

集まったお金は、西条ロータリークラブ奨学金として使われます。

出席報告（9月13日例会）

例会出席は正会員の最も基本的な責務で、会員がお互いに胸襟を開いて親交を深め、奉仕を語り合う機会です。会員は、クラブで定めた前半・後半の6ヶ月間に、自己の所属クラブでは、それぞれ30%以上出席し、且つ、年間通算の出席率は出席補填を含めて50%以上であることが必要です。また、例会は概ね1時間ですが、少なくともその60%は会場に止まる義務があります。

◆会員数 38名 ◆出席者 28名
◆来訪者 0名 ◆欠席者 7名
◆免除者 3名
◆8月23日の欠席者 7名
◆メイクアップ 7名
★出席率 100%
★通算出席率 100%

出席の補填（メイクアップ）

クラブの例会に出席できなかった場合には、例会前後の14日以内に他のロータリークラブの例会に出席すること。出席補填は、訪問先での出席証明を受け取り、自クラブに郵送または直接幹事に提出または申告することで完了します。

理事会報告

◆日時：平成30年9月13日（木） 13時35分～

◆場所：グランラッセ東広島

1. 協議事項

特になし

2. 審議事項

1) プログラム11月分承認の件

添付資料【プログラム計画(案)】を確認し、全会一致で承認された。

2) 北海道地震に対する義捐金について

地区事務局からの資料を確認し、全会一致で承認された。

3) 2018酒まつりへの寄付金の協力について

東広島商工会議所からの資料を確認し、全会一致で承認された。

4) 第33回東広島市少年剣道大会支援金について

東広島剣道クラブからの資料を確認し、全会一致で承認された。

5) 酒造通り活性化事業「酒造通り元気プロジェクト」の寄付金について

東広島観光協会からの資料を確認し、全会一致で承認された。

6) 退会者の件

久保会員より転勤に伴う退会の申し出があり、これを受理し承認された。

3. 報告事項

8月会計報告 承認

4. その他

1) 武島青少年奉仕委員長より、「英語暗唱大会2018」の開催資料が提出され、説明があった。

2) 山田会長より、酒まつりの際に、他クラブより来客があるため、出席できる方は是非出席いただけるよう要請があった。

西条ロータリークラブ

創立 1964年5月11日 例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

事務局 東広島商工会議所会館3F 東広島市西条中央7-23-35

TEL(082)420-0320 FAX(082)420-0319

西条RC公式ウェブサイト <http://www.saijo-rc.jp> メール saijorc@eagle.ocn.ne.jp

会長 山田 謙慈 副会長 廣幡 勝祐 幹事 奥本 哲之 副幹事 菅生 一郎